心で育まれる「平和」

沖縄尚学高等学校付属中学校　三年
ブラッドリー　桜ミシェル

私は平成十一年生まれです。生まれてこのかた大きな戦争を経験していません。しかしアメリカの九・一一やアアガン問題、最近のウクライナ情勢、竹島や尖閣諸島問題等など、国や民族、宗教思想の対立が終わることはなく、いつまた世界的な戦争に発展しても不思議ではない情勢不安が続いています。先日新聞では「二〇一二年、世界のテロは減るどころか四割方増加傾向にある」と報道されていました。戦いのない世の中を、とだれもが願っているはずなのに、やはり世界のどこかで誰かが争い傷ついているのが現状。私たちは今、何を目指すべきなのでしょうか。これは父から聞いた話です。九・一一からそんなに経っていない時で、大学に勤めていた父の周りにはイスラム圏からの研究留学生が多数いました。その多くが自国から家族と共に来日しており、彼らの子供たちが学校でいじめを受けているということでした。宗教がイスラム教だったからです。その子たちは不登校となり、困り果てた両親は、結局自分たちの研究は半ばのまま帰国せざるを得なくなりました。このような家族が多くいたそうです。私が小学生になり、平和教育で戦争や平和について考えることが多くなってからこの話を聞き、憤りを感じました。

また、二年ほど前、尖閣問題で日中関係が悪化し、日本製品の不買運動や抗議デモが多発しました。日本から進出しているデパートが壊され、在日本人家族が安全のために帰国を余儀なくされている様子が連日報道されていました。この時も私は、

「また無関係の人々が苦しい立場に立たされている」

とやりきれない想いでした。それと同じ頃、私のクラスでも日本と中国のダブルの子が、他のクラスメイトから暴言を吐かれているのを目にしました。

「おい、お前、尖閣問題をどうにかしろ！」と。言われた子の方は、少しムッとした表情で、さぞかし不快だっただろうと気の毒でした。何の自覚もないまま争いの火種を作り、平気で戦いをしかけてくる人たちが、私達の周りにたくさんいることも同時に学びました。

そして今年三月十二日より、私は沖縄県のエジュケーショナル・ツーリズムで香港に行きました。現地の金文泰中学校での交流事業がメインのプログラムでした。そのための事前学習では、観光・食べ物・行事など、沖縄の魅力を紹介するプレゼンテーションの準備に追われました。ネットで画像を取り込んだり説明文を英文で考えたりと、皆さんにはどうしたらより簡単に理解してもらえるか、そのプレゼンに向けて色彩やロゴも工夫しました。この間、日常的には学校の宿題もたくさんあり、とても忙しい毎日ではありましたが、渡航メンバー同士の話し合いが少しずつ「かたち」になり出来上がっていく過程を体感し、ワクワク感が高まっていきました。

当日、本番はバッチリでした。心の中で、「やった！」と思いました。また金文泰中学校の皆さんとの生の交流も素晴らしいものでした。一人ひとりと記念撮影をし、プレゼントやカードをもらい、まるで自分がスターにでもなった気分で会話もはずみました。こんな発表でみんな聞いてくれるのだろうか、盛り上がらなかったらどうしようなど、不安で一杯でしたが、そんな心配は無用でした。さらに嬉しいことにFace bookにアクセスすると、私宛てのコメントも届いていました。尖閣諸島や日中関係は大きな問題なのでしょうが、私たちが実際に関われる小さな世界では決して大きくはなり得ません。そのような問題を一気に飛び越え、ただ一つひとつの出逢いを大事に、一瞬一瞬を楽しめるものに変えてい

けるのです。

実際に関わってみなければ何も理解できません。外側の知識だけで全部を理解した気になるのは間違っているし、そこで争いのきっかけを生んでしまうのは罪作りです。小一のとき、広島での講演会でダライ・ラマ一四世は言われました。「平和は外ではなく内にある」と。つまり「平和は内側、私たちの心の中にある」ということです。人と人、国と国、思想と思想を区分けせず、どれが善でどれが悪と評価せず、全てのものや人が地球上の今の時代に生きている、という意識を持って。私たちそれぞれにある特技を生かし、いつも自分に出来る小さな実践を積み重ねる……。このとき私たちは心の平和を感じることが出来るはずです。この個々の心の平和が集結するとき、世界の平和が実現されていくのだと思います。最初は小さいけれど、確かなかたちで。